教区新報 HONGANJI

発行所
浄土真宗本願寺派　兵庫教区教務所
〒650-0011 神戸市中央区下山手通８丁目１番１号
（本願寺神戸別院内）
電話 神戸（078）341－5949㈹
〔編集〕教区基推委広報部

1999. 3. 122号

「いのち」の連研を実行
青僧会・モダン寺テレホン法話も

青年僧侶の会（山西昭義会長）の連続研修会『いのち・生命（いのち）・無量寿（むりょうじゅ）』の第一回が二月八日別院で、第二回が三月二日姫路西組本徳寺で開催されました。

第一回の講題は「西洋科学と仏教～いのちのとらえ方の違い～」で講師は教学研究所嘱託研究員の大谷照裕師、参加者は約五十名でした。いのちをモノ化し合理的に選別し操作するところまで来ている西洋科学とキリスト教の関係について詳しく説かれ、一方仏教ではあらゆるいのちとのつながりの中で私のいのちが存在し、山川草木悉皆成仏と説かれる様に、すべてのものの中に仏に願われた尊いのちを見い出して来たとその違いを講演されました。

第二回は「神と仏～ケガレの思想～」の講題で京都女子大学助教授の和田俊昭師を講師に45名が参加しました。本来ケガレとは「気枯れ」のことで、日常生活（ケ）が長く続くとエネルギーが落ち（ケガレ）、そこで非日常的な儀礼（ハレ）を行うことによってエネルギーを回復するという日本人の伝統的生活リズムの中で位置づけられる言葉であったが、そこから第二次的に神道によってケガレ＝不浄という観念が生み出され、浄穢の思想が定着していったと講演されました。

研修会は第六回まで計画されており、以後は第三回五月十三日「生命倫理と仏教」同明大学教授の田代俊孝師、第四回六月二十九日「死刑制度と仏教」親鸞塾主宰の玉光順正師、第五回平成十二年二月八日「希薄となり続けるいのち」青少年問題カウンセラーの外松太恵子師、第六回平成十二年三月十日「限りなきいのちの世界」龍谷大学教授の岡亮二師の予定で、会場は第三、四、六回が別院、第五回がホテルサンガーデン姫路、時間はすべて午後四時～六時、どなたでもご参加いただける公開研修会で参加費各回二千円となっています。

また今春からモダン寺並びに岡山江並教堂テレホン法話を青僧会が担当することとなりました。今までテレホン法話は専門の業者に依頼していましたが、経費削減のため教区内でと考えていたところ、自己研鑽の場を求める青僧会が担当を引き受けることとなりました。尚テレホン法話の番号は、モダン寺は、四月一日から〇七八－三四一－八五四六、江並教堂は三月十五日から〇八六－二七六－八三九九へと変更します。どうぞお聴きください。

研修会（姫路西組本徳寺にて）

憶

インド独立の父ガンジーの片腕といわれたアンベードカル博士は、ジャーテイ社会の差別から最下層の人々を救おうとして新仏教徒への道を開いた◆スリランカのサルボダヤ運動をになう僧たちは、農業復興のために貧しい農民の自立を支援している◆バンコクでは、スラムの子供たちの生きる道を保障しようとして、尼僧P・ウンソンタムさんらが苦闘し、タイ奥地ではT・シバラクシャ師と若い僧侶が、日本商社の森林破壊に抗して原地の人々の生活を守る植林に励んでいる◆いずれも、貧しく抑圧された人々の中に身を置き、倶に苦しみながらの活動である◆ひるがえって、私どもはどうか。権力におもねって財を蓄え、人々の苦しみに目をつむっていないか◆お念仏させられる生活とは、智慧の光明に眼を開かれながら、人々の苦悩を生みだす社会のネジレを見抜き、「おもうがごとくたすけとぐること」の難かしさに哭きながら、働かせてもらうことではないか。

（青木敬介）

教区だより　3・4月

20日（土）～22日（月）
別院彼岸会　本多智道師　1時半
23日（火）・24日（水）
仏婦震災支援法話会
25日（木）
組長会　10時半
蓮如上人500回遠忌法要団参委員会　1時
26日（金）
都市開教「仏教を聞く集い」　阪神北組・教蓮寺
25日（木）～27日（土）
仏青・寺院子弟スキーツアー　新潟・妙高パインバレー
29日（月）
教区会　1時半
30日（火）
総代評議員総会　10時半
31日（水）
少年震災支援花まつり　1時
4月1日（木）
教区会議員・組長選挙　各組
2日（金）
淡路組組巡回　萬行寺
3日（土）
第一土曜仏教講座　吾勝常晃師　1時半
門推の日　10時
6日（火）
仏婦常任委員会・委員総会　9時半・10時半
8日（木）～9日（金）
教務所長研修会　本山
11日（日）
蓮如上人500回遠忌延修法要　山科別院
13日（火）
少年役員会　2時
15日（木）
スカウト役員会　7時
15日（木）～16日（金）
別院常例法座　小原唯信師　1時半

28日にご消息披露
全住職が出席

この度、平成十年十一月十三日発布の「蓮如上人五百回遠忌法要御満座のご消息」及び平成十一年一月十六日発布の「本願寺御影堂平成大修復に際してのご消息」披露を総局が全教区等に巡回しご消息の趣旨を伝達するため、「ご消息披露総局巡回・ご消息をいただいて―み教えを次の世代へ―」が実施される。

兵庫教区は四月二十八日（水）に、豊原大成総長をはじめ松原功人本願寺御影堂平成大修復推進事務所長、松村彰道文書部長、山本政秀同事務所課長が、随行講師に橋本明宣師（山陰教区飯石南組高林坊・本願寺派布教使）が出向になる。

日程は、午後一時から第一部「ご消息披露式典」で正信偈草譜の勤行、豊原総長のご消息拝読・伝達、総長挨拶、橋本師の記念講話と続き、休憩の後、第二部「協議会（つどい）」で高橋教務所長挨拶、ビデオ上映、ご消息の趣旨を体しての協議会、松原所長挨拶、恩徳讃斉唱の日程で、午後三時三十分に散会となる。

出席対象者として、教区内の全寺院住職と門徒代表、宗会議員、教区会議員、組長、副組長、布教団副団長、基推委副会長、本願寺参与、神戸別院参与、神戸別院責任役員、豊岡・江並両教堂責任役員、教化団体関係代表、寺族代表、講社代表、その他教区において出席の依頼を必要とする者となっている。尚、出席者の服装は、僧侶は略服第二種（布袍・輪袈裟）、門信徒は門徒式章着用をお願いします。

蓮如上人五百回遠忌法要円成を喜ばせていただき、「親鸞聖人のみ教えを讃仰する私たちの心のふるさとであり、よりどころであります」御影堂の平成大修復のため、教区内挙って懇念を結集したいものです。

テレホン法話
番号が変わりました！

モダン寺テレホン法話
078－341－8546番

岡山テレホン法話
086－276－8399番

敬弔

清水政子さん（しみず・まさこ＝赤穂北組明福寺前坊守）一月六日、八十七才で往生。葬儀は一月九日、明福寺で。「慧光院釋尼秀栄」。

福田大悟師（ふくだ・だいご＝網干組圓勝寺住職）一月八日、六十才で往生。葬儀は一月十一日、圓勝寺で。「聞覺院釋大悟」。平成二年より住職在職十年。本願寺派布教使。

葛野由幾さん（かどの・ゆき＝阪神北組常忍寺前坊守）一月九日、八十才で往生。葬儀は一月十一日、常忍寺で。「慈教院釋尼由幾」。

西本教圓師（にしもと・きょうえん＝氷上西組安養寺住職）一月二十八日、六十八才で往生。葬儀は一月三十一日、安養寺で。「安養院釋教圓」。昭和五十年より住職在職二十五年。平成六年から副組長。

佐々木慈教師（ささき・じきょう＝揖龍東組教覚寺住職）一月三十一日、七十六才で往生。葬儀は二月二日、教覚寺で。「摂願院釋慈教」。昭和二十七年より住職在職四十八年。

旭君子さん（あさひ・きみこ＝揖龍東組福正寺坊守）二月六日、九十才で往生。葬儀は二月九日、福正寺で。「宝光院釋尼貴美」。

松本廣長師（まつもと・ひろなが＝神戸東組圓福寺住職）二月八日、六十九才で往生。葬儀は二月十二日圓福寺で。「往還院釋廣長」。

大岡静覺師（おおおか・じょうかく＝神明組金勝寺住職）二月二十二日、八十六才で往生。葬儀は二月二十五日、金勝寺で。「明勝院釋静覺」。昭和九年から住職在職六十六年。昭和五十六年から同六十一年まで教区会議員。昭和二十四年から同四十八年まで組長。

＊

兵庫教区教化センター
建設懇志進納総額
二十三億九千九百四万四千七百七十五円
本願寺借入金二億円の内本年度四千万円を返済し、完済しました。
（99年3月20日現在）

「各組の過去帳調査に学ぶ研修会現状報告」

教区相談員　近藤龍樹

(1)　調査の経過

一九九七年度に実施された「差別法名・過去帳調査」の結果、兵庫教区内七七九寺院中、

・差別添書（四ケ寺）

・差別的記載形式（一ケ寺）

・差別につながる添書き（四十五ケ寺）

からの報告があった。重複を整理し、合計四十九ケ寺の過去帳が書き換え対象となった。

兵庫教区の場合は、基推委員会内の認定委員会で過去帳の書き換えについては、全面書き換えを原則とすることを決定し、書き換えを依頼した。結果として「過去帳書き換え実施計画書」提出寺院は現在四十九ケ寺中二十七ケ寺だった。内、全面書き換え（二十一ケ寺）、部分書き換え（六ケ寺）という状況となっている。

(2)　組同朋講座開催状況

今年度の組同朋講座のテーマは、「差別法名過去帳調査に学ぶ」だった。開催状況は、三十二組（三／二十七現在）である。

過去帳が宗門人別帖と表裏一体をなした歴史を持っていたため、寺院と門徒共有の過去帳となりえなかった。そのことが教団にどんな体質をつくってきたか、いろいろな意見が話し合われたが、私達が今年の組同朋講座から自分の学びをどこまで深め、門徒との信頼回復に取り組むことができたかというところが大切にされなければならない。

(3)　今後の課題として

「差別法名・過去帳調査」実施以来、差別の現実から、宗教者として何を学び得たか。またそのことから具体的な運動にどう移行していくのかが、「信心の社会性」を明らかにする営みではないだろうか。今回の過去帳の問題は、次年度の継続課題として、「真俗二諦や信心理解」の問題を明らかにする具体的課題として過去帳の問題をもう少し教区、組で深めていく。

様々な課題が山積されたままの部分もあるが、これらの意見や課題を次年度からの基幹運動に連動させ、御同朋の社会の実現にどうすれば共に近付いて行けるか、第二段階にこれから入っていくところではないだろうか。

門推研修に85人参集

兵庫教区門徒推進員連絡協議会副会長　前田厚子

二月二十八日、兵庫教区門徒推進員連絡協議会（中井修会長）主催の第二十八回門徒推進員研修会を淡路組萬行寺（山本宣昭住職）を会場に開催しました。

教区内から明石海峡大橋を渡り、総勢八十五名の門徒推進員の皆さんが早朝より集まってくださいました。

山本住職を中心に、淡路組門徒推進員の皆さん、萬行寺総代さん、仏教婦人会の皆さん達が前日からのご準備のおかげにより定刻の十時三十分に開会することができました。

司会の宮前とし子さんのやさしく暖かいお声での開会のことばがのべられ、中山清恵さんの調声により重誓偈をお勤めし、高橋廣爾教務所長、中井会長、山本住職からそれぞれご挨拶をいただいての開会式。

引き続き、基調講義を藤榮行信先生（連研中央講師淡路組宣徳寺）に、テーマを「信心の社会性－閉じられた私から開かれた私へ－」と熱意溢れるお話をいただきました。

昼食は、淡路組の皆さんそして萬行寺坊守様の心づくしの温かいお味噌汁を添えて海の幸いっぱいの美味しいお弁当でした。

午後は、六班に分かれて石原敏成副会長の挨拶の後、研修会開催に当り、ご夫婦でご準備くださいました、坂本旭淡路組門推会長の挨拶で閉会しました。

今までと違った自分を見つけ、門徒推進員としてこれから社会とどう向き合っていくのかを再考させられる研修会となりました。

熱心な話し合いになりました。「寺院とは、悩みを置いて帰るところと思っているのに、いつも閉ざされた門、閉めきられた本堂では寺院と門徒の間は隔たりがあるばかり。門徒推進員の立場としてそのパイプ役を務めなければならないと思っているが、どちらの立場も曖昧であり、今一度中央教修での決意表明を思い出し、基幹運動推進に積極的に取り組みたい」等々の意見が出ました。

閉会式には、石原敏成副会長の挨拶の後、研修会開催に当り、ご夫婦でご準備くださいました、坂本旭淡路組門推会長の挨拶で閉会しました。

熱心にご法座（淡路組萬行寺にて）

解放運動の発祥地 柏原に学ぶ

近畿同和教育推進協議会（近同推）の定例研修会が二月四日、滋賀教区担当で奈良県柏原の西光寺で開かれ、柏原解放センターで現地学習をした。

続いて、同月八～九日、第三ブロック布教使研究会が青年布教使研修会と併催というかたちで、奈良教区のお世話で橿原ロイヤルホテルを主会場に、西光寺と柏原解放センターに移動しながら開かれた。浅井成海先生から蓮如教学について学ばせていただいたし、第九回全国布教使大会の決議文も確認しあった。

しかし、何を措いても最大の収穫は、解放運動発祥の現地に学んだことであった。西光寺の本堂では、西光万吉はじめ颯爽たる解放の闘士のおもかげと同座することができたし、柏原解放センターでは、当館の展示や研究員の講話のなかにこの柏原地域の長い差別の歴程と今も不断に脈打つ解放への息吹を肌に心に感じることができた。

（出石組勝林寺　西池哲俊）

追悼法要で震災偲ぶ

HO日誌

◆1月1日＝別院元旦会◆8日＝別院・教務所事務開始式◆9日＝別院土曜子ども会◆14日＝別院永代経開闡法要◆15日～16日＝別院常例法座。講師は中尾教雄師（氷上西組西光寺）◆16日＝本山御正忌御満座・御消息発布式・記念の集いに高橋所長が出席◆17日＝阪神・淡路大震災物故者総追悼法要を勤修。高橋輪番を導師に職員が出勤。百十人の参拝者が焼香。法話を廣岡行信師（神戸中組徳照寺）が、自らの震災体験を交えて亡くなられた方を偲びながらお念仏申す人生を歩みましょうと話された◆教区仏婦連盟（木村久子委員長）が神戸市西区の西神第七仮設住宅で追悼法要を◆仏婦常任委員会を別院で◆19日＝布教団役員会を別院で◆20日＝別院仏婦報恩講。講師は高橋廣爾輪番◆22日＝基推委企画常任委員会を別院で◆23日＝第4回まことの保育研修懇談会を別院で。六十六人が参加。講師に、絵本のよみきかせを勧めている別院清先生を招き研修引き続き、市内のポートピアホテルで会食。自己紹介を含めたビンゴゲームで会長賞、理事長賞を争奪◆25日＝寺婦委員総会を別院で終了後、新年懇親会をジャンムーランで。フランス料理とワインを楽しんだ◆26日＝蓮如上人五百回遠忌法要常任委員会を別院で◆佐用組法覚寺仏教婦人会より別院に団体参拝◆28日＝門推幹事会を別院で◆28日～29日＝仏婦担当者会議が本山で。尾井担当者が出席◆29日＝はちす会に高橋所長が出講◆少年役員会を別院で◆31日＝仏壮年常任理事会を別院で◆2月1日～2日＝組長・副組長・組相談員合同研修会を本山・聞法会館で。百人の参加を得て豊原大成総長から「21世紀に向けての宗門の取り組み」瓜生津隆真京都大学学長から「蓮如上人に学ぶ」と講演をいただく。研修会終了後、多目的ホールで懇親の場をもった◆2日＝仏青役員会◆3日＝西本願寺の時間ラジオ放送委員会・都市開教部会を別院で◆4日＝近同推研修会が奈良で◆5日＝広報部会を別院で◆近畿ブロック保育連絡協議会が本山で。筑波亮英理事長竹内担当者が出席◆6日＝第一土曜仏教講座。講師は清水正宣師（和歌山教区御坊組専福寺）。講題は「本願力に遇う」◆門推の日を別院で。17人が参集し各々の活動を語り、悩みを話し合う◆四州教区徳島北組坊守会より別院に団体参拝◆7日＝別院仏婦定例法座。講師は寺本峰昭師（神崎組真楽寺）◆8日＝青僧会研修会を別院で。45人が参加講師は大谷照裕師（教学研究所嘱託研究員）◆門推研修会準備会を萬行寺（淡路組）で◆8日～9日＝第3ブロック布教使研修会が奈良・橿原ロイヤルホテルで教区から10人が参加◆10日＝基推委定期研修会を別院で。50人が出席。講師は藤田徹文師（備後教区御調西組光徳寺）講題は「浄土真宗の伝道のあり方について」◆青僧会役員会を別院で◆12日＝連研推進委員会を別院で◆13日＝ビハーラ研修会を別院で。講師は神代尚芳師（荻原みさき病院副院長）。講題は「自分らしく死ぬために」◆14日＝別院永代経開闡法要◆15日～16日＝別院常例法座。講師は堀正昭師（揖龍西組明正寺）◆17日～18日＝総代一泊研修会を別院で。65人が参加講師の中央基幹運動推進相談員の後藤法龍師（熊本教区阿蘇組東照寺）から「蓮如上人五百回遠忌法要御満座のご消息をいただいて」と基調講義。研修指導員の寺本峰昭師（神崎組真楽寺）和田宏之師（揖龍東組源徳寺）が総合司会や分科会を担当◆19日＝常備会◆20日＝菅原家・津川家仏前結婚式を別院で。新婦の津川さやかさんは城崎組明元寺寺族◆22日＝基推委企画常任委員会◆23日～24日＝矯正管区支部一泊研修会が京都の緑風荘で◆24日＝布教団基幹運動研修会。44人参加◆24日～25日＝少年教区交流会を四州教区で◆25日＝神明組金勝寺住職葬儀に高橋所長が達書伝達◆25日～26日＝寺婦研修旅行に奈良方面へ◆28日＝第28回門推研修会を萬行寺（山本宣昭住職・淡路組）で。85人が参加。講師は連研中央講師の藤榮行信師（淡路組宣徳寺）。

自分で挑戦し反省

少年連盟委員長　藤井章乗

少年連盟では、阪神・淡路大震災後「被災した子どもたちに、ほほえみを！」のテーマのもと5年計画のなかで活動をすすめています。

一人ひとりが、自然の厳しさにであい、自分自身のすばらしさ尊さをあらためて学ばされるのではないでしょうか。子どもたちは、大人が感じる感性をとっくに越えて、いたずらや過激な行動をいたします。「こらー」とわめく、でもそれはこどもなりの創造力あふれる行動でもあると思う。自分で挑戦し、自分で考え行動して反省する。自分の喜びを自分でつかんでいく。

震災にであって子ども達もきっと今、学んでいる。

平成十一年度は震災五年目までの締めくくりの年です。春、花まつりを三月三十一日に神戸別院で手づくりケーキ作りを梅雨の晴れ間の六月十二日に神戸別院で、ぎらぎら夏、サマースクールを七月二十八日～三十日に淡路サンパークで、初秋を迎えクラフト教室を八月二十日に神戸別院で、震災五年の集いを十二月二十六日に神戸別院でそれぞれ開催の計画を立てています。

少年連盟では、お寺を通して、ふれあい、であい、自らがめざめてほしいと願っています。どうぞご参加くださいますようご協力をお願いいたします。

震災後の花まつり（神戸東組妙善寺にて）